

## IV. 運営委員会報告

### (1) 第1回運営委員会

① 日 時 令和5年7月22日

② 場 所 パルシェ会議室（静岡市葵区）

### ③ 報告内容

#### ○委託事業について

本研究事業では、これまで静岡大学と静岡県就労研究会で実施してきました「大学で学ぼう」を基盤として、「ハイフレックス型生涯学習」の構築を目指していく方針について説明した。また、事業コンセプトについて共有した。

#### ○静岡県障害者就労研究会の取り組み、生涯学習「大学で学ぼう」について

これまで、静岡県障害者就労研究会では、知的障害者を対象とした生涯学習「大学で学ぼう」を静岡大学地域連携と山元研究室と協働で実施してきた。これまでの実績と課題について説明をした。

#### ○教材開発について（静岡大学教育学部特別支援教育専攻 4年平出早紀）

知的障害者を対象とした動画教材の開発について説明をした。

計画としては、「生きる」「暮らす」「学ぶ」を柱として、それぞれ具体的なテーマを設定し、受講者の主体的な学びとなるように、事前配信動画、授業動画、振り返り動画と3つのステップで動画を作成し、ハイフレックス型の学びと、一人一人の学びが充実するようになるよう構成したことについて説明をした。



### ④ 協議内容

#### ○障害者の生涯学習に関すること

- ・青年学級との情報共有の必要性
- ・浜松での実践、三島での実践との情報共有の必要性
- ・静岡市での生涯学習の実施状況調査について
- ・特別支援学校高等部との接続について
- ・「大学で学ぼう」では継続して参加している人も多く、「学び」を楽しみにしている人も多いことについて

#### ・「大学で学ぼう」の参加者の高齢化と付き添う保護者等の負担感

#### ○今度の取り組みの中での連携協働の在り方に関すること

- ・特例子会社とのコラボレーション
- ・特別支援学校、特別支援学級への訪問による授業実践

## (2) 第2回運営委員会

- ①日 時 令和4年12月6日
- ②場 所 レイアップビル（静岡市葵区）

### ③報告内容

○10月29日第2回大学で学ぼうの報告

○動画開発について学生から報告

（静岡大学教育学部特別支援教育専攻 4年安藤、平出）

☆安藤（PowerPointを使用）

動画教材開発の研究的背景について

コンテンツ内容（ドキドキ、イライラ、ポー、目が疲れた時、疲れたとき）

動画教材の視聴

☆平出（PowerPointを使用）

英語動画開発について

動画教材開発の背景

実践報告

大学で学ぼう 事前動画視聴

特別支援学校での授業実践 動画視聴

### ④協議内容

○生涯学習の定義に関すること

- ・即、その人の生活を豊かにするのではなく、学びを広げていくという捉えの方がいい

○教材開発の視点に関すること

- ・「生活年齢」を意識した内容にした方がよい
- ・知的障害のある人たちも、難しいことを学びたいと思っている
- ・地元のことを知りたいという欲求もある

⇒「本物」「静岡」「生活年齢」を意識した内容を教材として取り上げたい

○本事業への助言

- ・後ろ盾が無い中で苦しい実践であることを理解し欲しい
- ・特例子会社の社員のキャリア教育に活用できそうである



(3) 第3回運営委員会

- ① 日 時 令和5年2月15日
- ② 場 所 静岡県立中央特別支援学校（静岡市葵区）
- ③ 報告内容

a. 授業報告

大学で開催する「大学で学ぼう」と、特例子会社を訪問して開催した授業については、以下の通りである。

		内容	指導形態	成果
7月17日	第1回大学で学ぼう	○アイスブレイク 自己紹介について考えよう① ○講義①地産地消	動画配信 対面授業	動画配信に関して、動画視聴スキルと参加者の利用状況の確認が必要性
10月29日	第2回大学で学ぼう	○アイスブレイク 自己紹介について考えよう② ○講義・演習 英語にチャレンジ	動画配信 対面授業	動画配信(又は会場で視聴)と対面実施(グループ)を活用することが効果的
12月11日	第3回大学で学ぼう	○アイスブレイク 自己紹介について考えよう③ ○講義・演習 「英語にチャレンジ」 —自己紹介編— 「明日も元気に過ごすために」	動画配信 対面授業	
12月Y日	知的障害特別支援学校分校での実践	○アイスブレイク ○講義・演習 「英語にチャレンジ」 —買い物編—	対面授業 (授業前に動画視聴)	動画配信については、事前の視聴が難しかった(期間の短さ、Wi-Fiの契約状況等) 授業については、満足度は高い。英語への関心も高く、これからも学びたいといった意欲も高い。
12月20日	特例子会社での実践	○アイスブレイク ○講義・演習 「アイスブレイク」	対面授業 (授業前に動画視	動画配信については、事前の視聴が難しかった(期間の短さ、Wi-

		「セルフケア：ドキドキ」	聴)	Fi の契約状況等) 授業については、満足度は高い。見えそうな場面の想起についても高評価であった。
12月24日	特例子会社での実践	○アイスブレイク ○講義・演習 「英語にチャレンジ」 ー買い物編ー	対面授業 (授業前に動画視聴)	動画配信については、事前の視聴が難しかった(期間の短さ、Wi-Fi の契約状況等) 授業については、満足度は高い。英語を使うといったリアリティについて、無いと感じる方が多く、実用性の面で評価がやや低かった。

b. 教材開発（生涯学習に関する動画教材コンテンツの開発）

年度の活動で作成した動画教材は、18本である。

動画教材「暮らす」「生きる」「学ぶ」の3つのシリーズにコンセプトを分けて作成した。静岡県障害者就労研究会 HP の生涯学習のフォルダー内に格納している。

<動画教材一覧>

暮らす	生きる	学ぶ
地産地消	セルフケア ワンポイントアドバイス 自己紹介	SDGS 水資源を大切にするために
旬産旬消	セルフケア 「イライラしたとき」	SDGS 水問題
	セルフケア 「身体の疲れを感じたとき」	防災教育 身の回りの災害
	セルフケア 「ぼーっとしたとき」	防災教育 大雨について
	セルフケア 「ドキドキしたとき」	防災教育 津波について
		防災教育 水災害について
		防災教育 避難所について

		英語を学ぼう アメリカ旅行に行こう（空港編）
		英語を学ぼう アメリカ旅行に行こう（道案内編）
		英語を学ぼう アメリカ旅行に行こう（自己紹介編）
		英語を学ぼう アメリカ旅行に行こう（買い物編）

c. 動画教材作成のための取材（資料①参照）

広島取材

日時 令和4年11月5日～6日

場所 広島県 安佐北区他

福島取材

日時 令和4年11月12日～13日

場所 福島県 双葉町 いわき市

成田空港取材

日時 令和4年12月1日

場所 成田空港第1ターミナル・成田空港第2ターミナル

④ 協議内容

○障害者の生涯学習に関すること

- ・令和4年度は青年学級の行事と重なることが多く参加者が少なかった
- ・三島で実施した実践も良かったので、今後、情報を共有したらどうか

○本事業への助言及び今後の取り組みに関すること

- ・動画教材については、「本物」であることを大切にしてほしい
- ・セルフケアでは、あまり、バリエーションを増やしていかない方がいい
- ・動画教材の内容は、シンプルで知的障害者が分かりやすく、繰り返し生活場面で活用できる内容がいい
- ・知的障害者に分かる・理解できる・判断できる範囲でのバリエーションの方がいい
- ・チラシ、リーフレットの活用は、特別支援学校校長会、幸せ創生センター等との連携をするとよい



資料①

取材の様子



土砂崩れの復旧状況について視察



洪水について語り部にインタビューを実施



請戸小学校（遺構）の取材



いわき



成田空港

## VI 調査報告

### 1. 特例子会社で働く成人の知的障害者の生涯学習のニーズ

#### (1) 目的

特例子会社で働く知的障害者の方の興味・関心、働く生活の中で学びたいこと、日常生活で感じるストレスについて明らかにする。また、動画教材を配信するにあたり、対象者がインターネットを利用できる環境にあるのか、日常生活でのインターネット利用時間と利用頻度等についても実態を調査する。

#### (2) 方法

##### ①調査期間

令和4年11月から12月

##### ②調査対象

特例子会社Aで働く知的障害者22人

##### ③調査方法

特例子会社Aの人事担当を介して、紙面にて配布を依頼する。配布後、質問紙調査を実施し回収した。

##### ④調査内容

##### a. 興味・関心のあることについて

次の18項目から興味・関心がある項目を自由選択式で回答するよう依頼した。(複数選択可) 18項目は以下の通りである。

1. 「読書」、2. 「絵を描くこと」、3. 「ものづくり」、4. 「音楽・映画鑑賞」、5. 「楽器演奏」、6. 「カラオケ」、7. 「アニメ・漫画」、8. 「ゲーム・ボードゲーム」、9. 「動物・ペット」、10. 「乗りもの」、11. 「スポーツ・運動」、12. 「散歩」、13. 「ヨガ」、14. 「写真を撮ること」、15. 「良好・レクリエーション」、16. 「グルメ」、17. 「ファッション」、18. 「その他」である。

##### b. 知りたいこと・学びたいことについて

次の17項目を作成し、当てはまる項目を自由選択式で回答するよう依頼した。(複数選択可) 17項目は以下の通りである。

1. 「読み書きや計算」、2. 「音楽・芸術について」、3. 「スポーツ・運動」、4. 「料理・清掃・片付け」、5. 「安全なインターネットの使い方」、6. 「病院のかかり方」、7. 「人との付き合い方」、8. 「お金の上手な使い方」、9. 「静岡県について(自然・歴史・伝統・特産物など)」、10. 「災害から身を守る方法」、11. 「環境問題について」、12. 「異性との付き合い方」、13. 「結婚・出産について」、14. 「結婚式やお葬式でのマナー」、15. 「休日の過ごし方」、16. 「英会話」、17. 「その他」である。

##### c. インターネット利用環境について

「インターネットを利用する環境があるか」という質問に対して「はい」または「いいえ」で回答するよう依頼した。

##### d. インターネットの利用頻度と利用時間について

「よく利用する」「ときどき利用する」「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」

の四件法を用い、当てはまるものを回答するよう依頼した。

e. 動画サイトの利用の有無について

「動画サイトを使用したことがあるか」という質問に対して「はい」または「いいえ」で回答するよう依頼した。

f. 日常生活で感じるストレスについて

次の 11 項目からストレス要因として当てはまる項目を自由選択式で回答するよう依頼した。(複数選択可) 11 項目は以下の通りである。

1. 「暑さ・寒さ」、2. 「身体の痛み」、3. 「けが」、4. 「病気」、5. 「睡眠不足」、6. 「身体の疲労」、7. 「人とのコミュニケーション」、8. 「環境 (自宅や職場)」、9. 「仕事のたいへんさ」、10. 「不安・緊張・怒り」、11. 「その他」である。

(5) 倫理的配慮

本研究は、静岡大学ヒトを対象とする研究倫理委員会を受審し、承諾を得ている (承認番号 21-35)

(6) 結果

a. 興味・関心について

22 人から回答を得ることができた。最も回答が多かったのは、「アニメ・漫画」で 18 人 (81.8%) であった。次いで、「ゲーム・ボードゲーム」が 17 人 (77.2%)、「スポーツ・運動」が 12 人 (54.5%)、「音楽・映画鑑賞」が 11 人 (50.0%)、「カラオケ」「写真を撮ること」「グルメ」が 6 人 (27.2%) と続いている。「その他」と回答した中には、料理や舞台稽古、SNS、釣りなどがあった。(図 2)

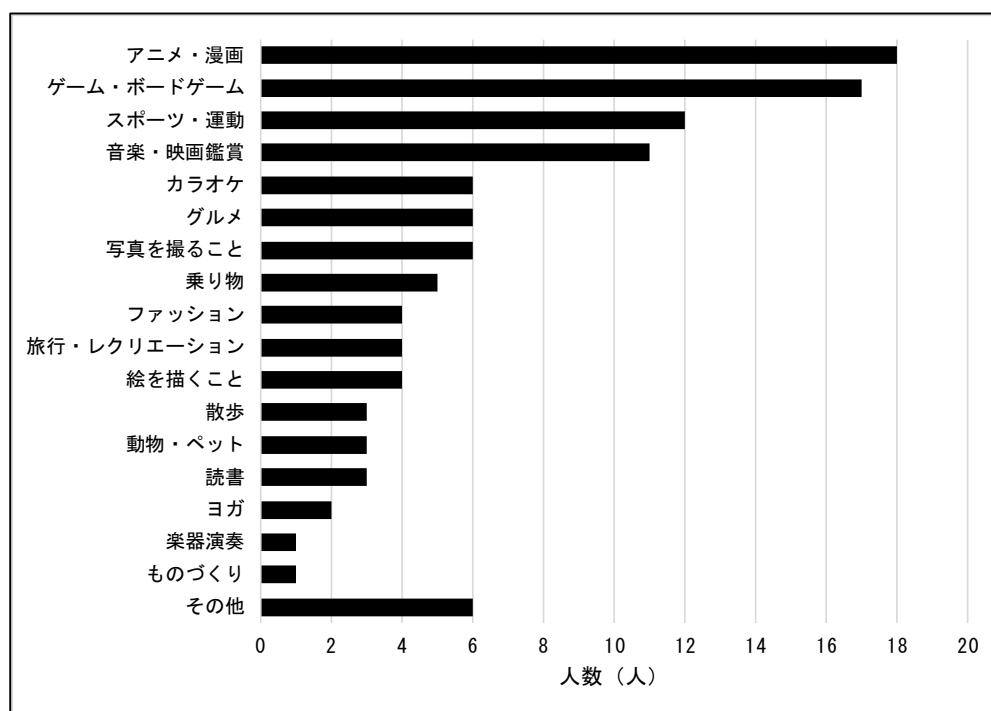


図2 特例子会社で働く知的障害者の興味・関心



1人あたりの回答数の平均は5.0であった。最も回答数が少なかった人は2個、最も回答数が多かった人は11個であった。最頻値は5であることから、対象の知的障害者は複数の興味・関心をもっていることが明らかになった。

b. 知りたいこと・学びたいことについて

22人から回答を得ることができた。最も回答が多かったのは、「スポーツ・運動」で8人(36.3%)であった。次いで、「料理・清掃・片付け」「人との付き合い方」「お金の上手な使い方」「結婚式やお葬式でのマナー」が6人(27.2%)、静岡県について(自然・歴史・伝統・特産物など)「異性との付き合い方」が5人(22.7%)、「音楽・芸術について」「安全なインターネットの使い方」「災害から身を守る方法」が4人(18.1%)であった。(図2)

22人のうち8人(36.3%)の受講者が「スポーツ・運動」と回答していることから、働く生活の中でもスポーツや運動などに取り組み、体を動かして仲間と楽しんだり、体力の向上を目指したりしようとする意欲をもっていること考えられる。また、「料理・清掃・片付け」「人との付き合い方」「お金の上手な使い方」「結婚式やお葬式でのマナー」など、生活する上で必要なスキルや良好な人間関係を築き、社会の一員として豊かに生きていくために必要なことについて、知りたい・学びたいと回答した人が6人(27.2%)であった。このことから、今の生活をより良いものにしようとする意欲があることや、社会で生きていくために必要なこととして認識していると考えられる。

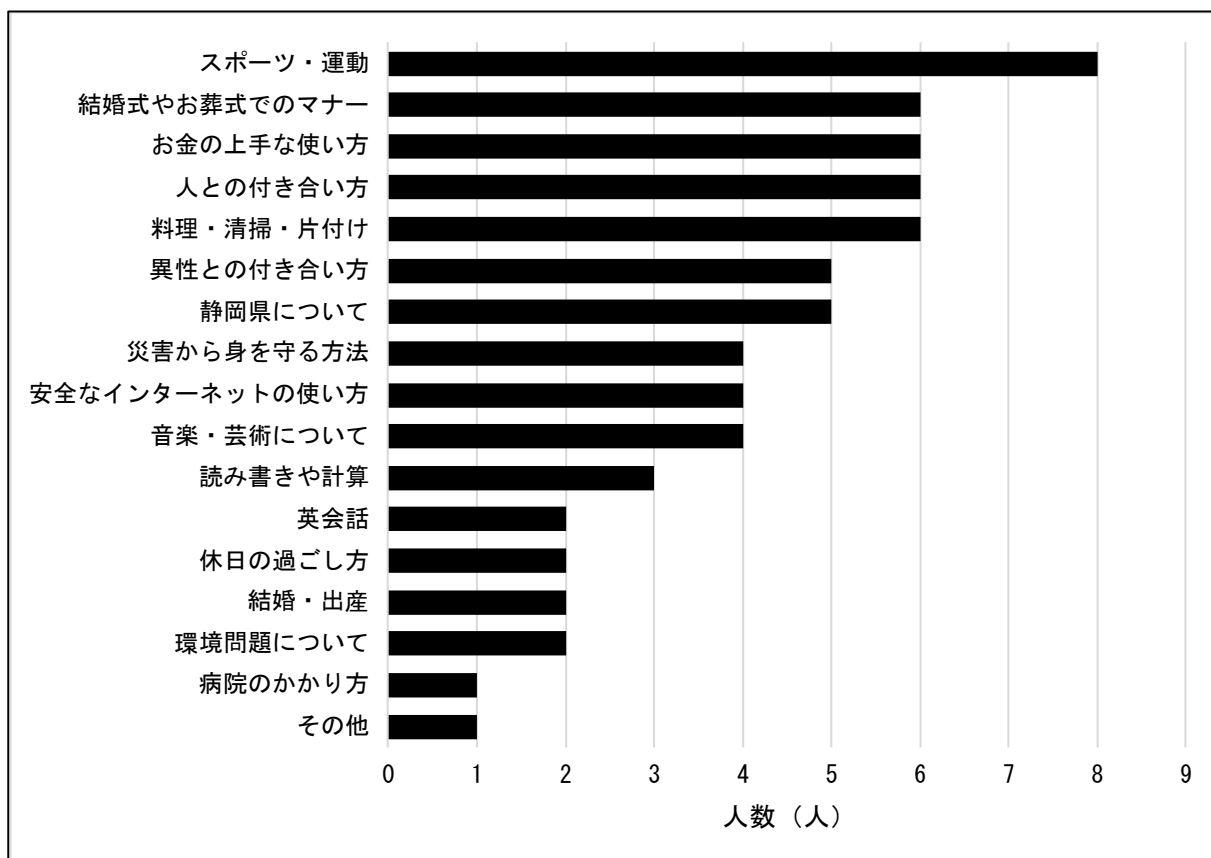


図6 特例子会社で働く知的障害者の知りたいこと・学びたいこと

#### c. インターネット利用環境について

回答者 22 人のうち、22 人 (100%) が「はい」と回答した。回答者全員がスマートフォンやパソコンを保有し、自宅にてインターネットを使用できる環境にあることが明らかになった。

#### d. インターネットの利用頻度と利用時間について

回答者 22 人のうち、21 人 (95.4%) が「よく利用する」と回答した。次いで、1 人 (4.5%) が「ときどき利用する」と回答し、「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」と回答した人は 0 人だった。利用時間については、「30 分未満」「30 分くらい」「1 時間くらい」「2 時間くらい」「2 時間以上」の中から当てはまる項目を 1 つ選択してもらった。回答者 22 人のうち、「30 分未満」と回答したのが 0 人、「30 分くらい」と回答したのが 2 人 (9.0%)、「1 時間くらい」と回答したのが 4 人 (18.1%)、「2 時間くらい」と回答したのが 1 人 (4.5%) 「2 時間以上」と回答したのが 15 人 (68.1%) であった。

21 人 (95.4%) がインターネットを「よく利用する」と回答していることから、本研究の対象である特例子会社 A で働く知的障害者は、保有するスマートフォンやパソコンを使ってインターネットに接続する習慣があることが明らかになった。

#### e. 動画サイトの利用の有無について

回答者 22 人のうち 20 人 (90.9%) が「はい」、2 人 (9.0%) が「いいえ」と回答した。

「どのような動画を視聴しますか」という自由記述式の質問に対しては、「アニメ・ドラマ・映画」「ゲーム実況」「アーティスト」「音楽・J ポップ・ボーカロイド」「イラストを描いている動画」「のりもの・車」「動物の癒し系」「メイク・ネイル・ファッション」「商品紹介」「料理」「筋トレ」「スポーツ」「釣り」「軍隊」という回答があった。また、使用しているアプリケーションとしては、「YouTube」「TikTok」「Netflix」「TVer」「Abema」「U-NEXT」「プライムビデオ」などが挙げられた。特に回答が多かったのは、「Youtube」「TikTok」の無料ダウンロードができるアプリケーションであった。

#### f. 日常生活で感じるストレスについて

回答者 17 人のうち、最も多かったのが「身体の疲労」で 11 人 (64.7%) であった。次いで、「環境 (自宅や職場)」が 7 人 (41.1%)、「人とのコミュニケーション」「仕事のたいへんさ」が 6 人 (35.2%)、「不安・緊張・怒り」が 5 人 (29.4%)、「暑さ・寒さ」「睡眠不足」が 4 人 (23.5%)、体の痛みが 2 人 (11.7%) であった (図 3)。

「どのようなときにストレスを感じるか」という具体的な質問については、自由記述で回答してもらった。次のような回答があった。「仕事量が多いとき」「人と意見が合わないとき」「理不尽なことをいわれたとき」「理解されないとき、話を聞いてもらえないとき」「上下関係で先輩にどこまで言っていかわからないとき」「コミュニケーションでミスをしたときに自分にイライラする」などである。

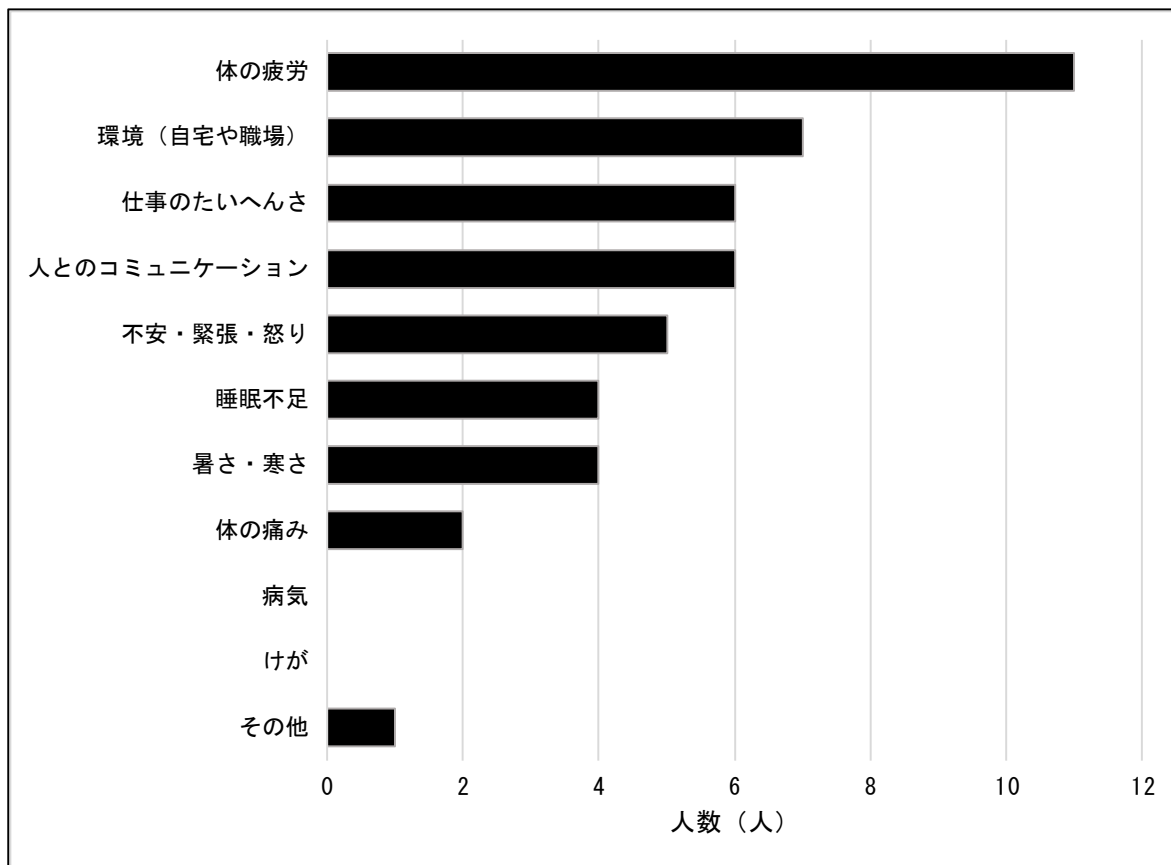


図3 特例子会社で働く知的障害者が日常生活で感じるストレス

## 2. 知的障害者の働く特例子会社の職員が考える生涯学習のニーズ

### (1) 目的

特例子会社で働く知的障害者の指導・支援に携わる職員は、知的障害者がより豊かに生活していくために何を学び、何を身に付けてほしいと考えているのか、明らかにする。また、知的障害者本人と職員で回答にどのような違いがあるのかを明らかにする。

### (2) 方法

#### ①調査期間

令和4年11月から12月

#### ②調査対象

特例子会社Aで働く知的障害者を指導・支援する職員6人

#### ③調査方法

特例子会社Aの人事担当を介して、紙面にて配布を依頼する。配布後、質問紙調査を実施し回収した。

#### ④調査内容

##### a. 障害のある人が豊かに生きていくために必要なこと

障害のある人が豊かに生きていくために必要なことはどのようなことだと考えるか、自由記述式で回答を依頼した。

##### b. 障害のある人が働く生活をしていく中で必要な力

障害のある人が働く生活をしていく中で必要な力はどのようなことだと考えるか、自由記述式で回答を依頼した。

##### c. 障害のある人が余暇活動としていること

障害のある人が余暇活動としていることは、どのようなことがあるか自由記述式で回答を依頼した。

##### d. 雇用する障害者への研修として取り組んでいること

雇用する障害者への研修としてどのようなことに取り組んでいるか、自由記述式で回答を依頼した。

##### e. 障害のある人がどのようなことを学んだら生活がより豊かになるか

次の17項目を作成し、当てはまる項目を自由選択式で回答するよう依頼した。(複数選択可) 17項目は以下の通りである。1. 「読み書きや計算」、2. 「音楽・芸術について」、3. 「スポーツ・運動」、4. 「料理・清掃・片付け」、5. 「安全なインターネットの使い方」、6. 「病院のかかり方」、7. 「人との付き合い方」、8. 「お金の上手な使い方」、9. 「静岡県について(自然・歴史・伝統・特産物など)」、10. 「災害から身を守る方法」、11. 「環境問題について」、12. 「異性との付き合い方」、13. 「結婚・出産について」、14. 「結婚式やお葬式でのマナー」、15. 「休日の過ごし方」、16. 「英会話」、17. 「その他」である。

### (3) 倫理的配慮

本研究は、静岡大学ヒトを対象とする研究倫理委員会を受審し、承諾を得ている(承認番号 21-35)

#### (4) 結果

##### a. 障害のある人が豊かに生きていくために必要なこと

職員 6 人から回答を得ることができた。得られた回答は、障害者本人にできることと障害者を取り巻く環境に関することの 2 つに分類した。まず、障害者本人ができることとして挙げられたのは次の 4 つである。

- ・他者を尊重し、信頼される行動をとることができること
- ・毎日健康で元気に過ごせること
- ・自分のできることをしっかり進めること
- ・良い人だけでなく、悪い人もいることに気づくこと

次に、障害者を取り巻く環境に関することとして挙げられたのは、次の 4 つである。

- ・どのような作業もできるよう指導を行うこと
- ・社会環境の整備
- ・毎日、働く場があること
- ・障害者だからという差別はせず、まずは話を聞くこと

##### b. 障害のある人が働く生活をしていく中で必要な力

職員 6 人から回答を得ることができた。得られた回答は以下の通りである。

- ・仲間組織を信用し、自分を成長させる力
- ・周りとのコミュニケーションをとること
- ・自分から伝えられること（報告、相談）
- ・素直に人の話を聞くこと
- ・健康であること
- ・お金の大切さを知ること
- ・自分のことを自分でやること
- ・自立能力

##### c. 障害のある人が余暇活動としてしていること

余暇活動としてしていることに挙げられたのは、「釣り」「スポーツ（する・見る）」「映画鑑賞・音楽鑑賞」「ドライブ」であった。

##### d. 雇用する障害者への研修として取り組んでいること

現時点で特例子会社 A が障害者への研修として取り組んでいることは、以下の通りである。「安全衛生」「コンプライアンス」「5S」「目標設定（会社目標理解）」「SNS」「法律・規則・ルール」「作業訓練（清掃・塗装）、技術習得」「資格をとるための教育」である。

今後、取り組む予定がある研修内容は、「金銭管理」「健康管理」「リーダーシップ」「性教育」「結婚」「保険制度」であるという。

e. 障害のある人がどのようなことを学んだら生活がより豊かになるか

職員6人から回答を得ることができた。(複数回答可) 最も回答が多かったのは、「人との付き合い方」「お金の上手な使い方」「異性との付き合い方」で6人(10.5%)であった。次いで、「スポーツ・運動」「料理・清掃・片付けなどの生活スキル」が5人(8.7%)、「読み書き計算」「災害から身を守る方法」が4人(7.0%)、「安全なインターネットの使い方」「環境問題」「結婚・出産について」「休日の過ごし方」が3人(5.2%)、「音楽・芸術」「病院のかかり方」「健婚式やお葬式でのマナーについて」が2人(3.5%)であった(図4)。

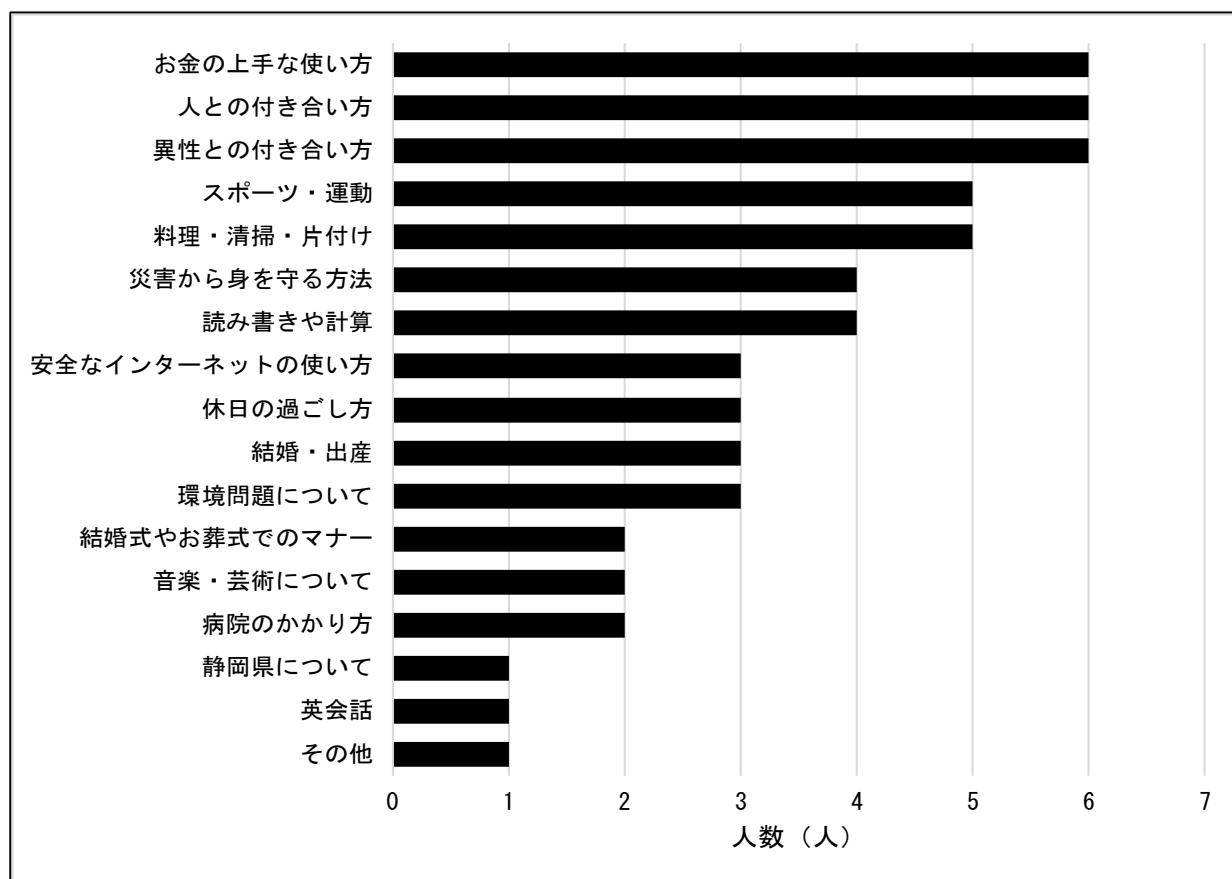


図4 障害のある人がどのようなことを学んだら生活がより豊かになるか

知的障害者が知りたいこと・学びたいことと彼らを支える職員が彼らに学んで欲しいと考えていることについて、上位4項目の中で両者に共通していたのは、「お金の上手な使い方」「人との付き合い方」「スポーツ・運動」であった。また、上位4項目には入らなかったが、「料理・清掃・片付けなどの生活スキル」も両者からの回答が多かった。

一方で、職員が彼らに学んでほしいこと上位4項目に入った「異性との付き合い方」については、知的障害者の回答率は低く、あまり必要性を感じていないと考えられることからニーズに違いがあることが明らかになった(図5)。



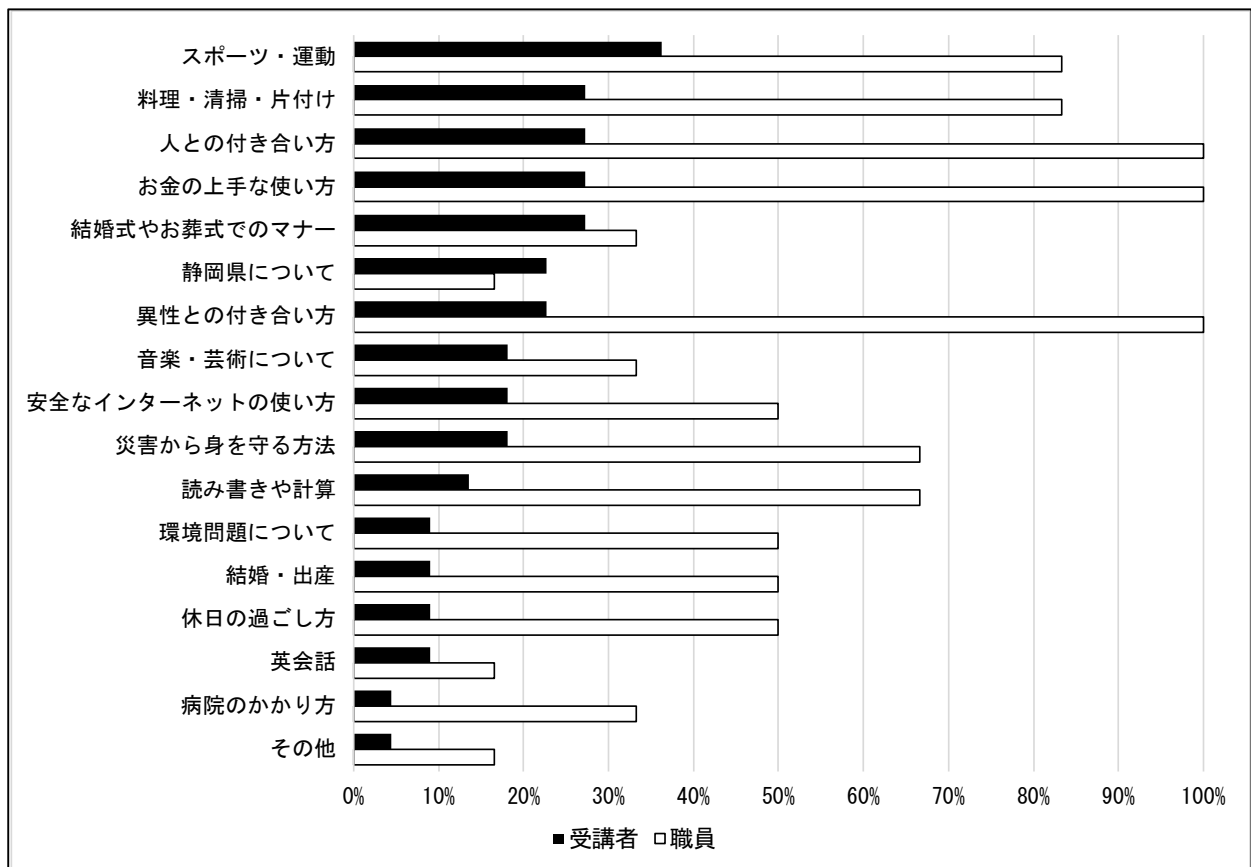


図5 知的障害者が知りたい・学びたいことと職員が彼らに学んでほしいことの比較

## VII 本事業に関するまとめ

本事業について、以下の通り、成果と課題、今後の方向性の視点からまとめた。

### 1. 成果と課題

以下、目標に対する成果○と課題△について示す。

(1) 一人一人の状況に応じた参加方法（対面、オンデマンド、ハイフレックス型）の開発  
○動画の開発により、「事前動画視聴⇒対面実施⇒事後の授業視聴による振り返り」といった新しい授業形態を実施することができた。

○事前視聴ができない場合は、対面授業前に視聴して参加することで、代替実施した。その場合であっても、事前視聴の効果である動画による「学びへの見通し」「意欲喚起」「自分の考えをもつ」といった点で効果を検証することができた。

△オンデマンド型とハイフレックス型の準備はできたものの、施設や利用者のインターネット環境に影響を受け、配信できなかつたり受信できなかつたりした。その理由として、利用者の Wi-Fi 環境や携帯の契約状況等により、自由に動画を視聴できる環境にない場合があった。また、動画配信から対面授業実施までの期間が短く、広報が行き届かなかったことがあげられる。

△知的障害者が自由にオンライン上で情報にアクセスできるアクセシビリティの問題は大きく、制限されていることが多かった。

(2) 生涯学習に関する動画教材コンテンツの開発

○地域の専門家、学生の協力を得て、「静岡のもの・こと・ひと」「本物であること」「生活年齢に適していること」を意識して、18 コンテンツの開発をすることができた。「本物」といった視点では、専門家の協力、学生による取材や実験等が動画に盛り込まれ、利用者が求める「本物」「知りたいこと」に迫れるように工夫した。

○内容について、「暮らす」「生きる」「学ぶ」とシリーズ化し、さらにテーマ化をしたことで、テーマをもって深く学ぶことができるようにした。

○深く学ぶために、動画の構成は、導入部分で基礎的な知識を盛り込むことと身近な問題としてとらえることができるように工夫した。また、対面授業に向けて考えをもってくるように促すことで、関心をもって対面授業に参加することができた。

○動画の効果として、事前動画では「見通し」「基礎的知識の獲得」「自分の考えをもつ」、授業内での動画では「内容が分かる」「やり方が分かる」、振り返り動画「何をやったかが分かる」という効果が得られた。

△「身近な内容」を設定したつもりだが、対面授業実施後の評価から、当事者は「身近」と感じていないことが分かった。自分の等身大の生活に実用的でない「必要でない」と判断する傾向にあることから、学ぶ必要性について触れることも大切にしつつ、まずは当事者の学ぶ必要性の高いものを扱っていく必要があると考える。

△実際の活用実績はまだ少ないので、今後、実績を重ねて、効果を検証する必要がある。

(3) 就学段階からの「大学で学ぼう」（生涯学習）への「接続」と「継続」

○特別支援学校分校での実施、特例子会社での実施から、動画教材を活用した生涯学習の

実施は、効果が見込まれることが分かった。

△「接続」と「継続」についてまで検証はできなかった。

## 2. 今後の方向性

(1) 一人一人の状況に応じた参加方法（対面、オンデマンド、ハイフレックス型）の開発

☆対面、オンデマンド、ハイフレックス型を実践し、その効果を図る

(2) 生涯学習に関する動画教材コンテンツの開発

☆動画教材作成の方法については蓄積されてきた。今後、内容については当事者のニーズを調査し決定し、動画本数を増やしていく

(3) 就学段階からの「大学で学ぼう」（生涯学習）への「接続」と「継続」

☆特別支援学校高等部への生涯学習への啓発（出前授業、リーフレット・パンフレットの配布）

## あとがき

「大学で学ぼう」の来年度の計画を立てる時期になりました。計画を立てるにあたっては、これまでは、受講生の声を聞きながら、内容や方法を考えるというものでした。そのため、要望のあったテーマを取り上げてきましたが、1回限りのイベントになりがちで、主体的な学びになりにくいという反省がありました。

この1年間の研究をとおして、受講生の学び方を考えることができました。事前の学びでは、「事前の動画」を用意することでどんなことを学ぶのか明確にし、主体的な準備ができるようにしました。ただ動画環境に大きな課題もみつかりましたので、事前のワークシートを工夫して、事前送付することで受講生それぞれが同じように準備ができるようにしたいと考えています。講義では、同じ動画を見ても、それぞれ捉え方が違います。グループ内で確認したり意見交換したりすることで、主体的な学びや学ぶ楽しさにつながっています。事後は、講師が内容を振り返っての動画を制作しました。今後は、ワークシート等の説明なども加えて、事後の動画で、内容が更によくわかるものにしていきます。

また今回の「大学で学ぼう」では、テーマを数回に分けて行いました。連続した学びにすることで、広く、深く学ぶことができます。来年度の計画も、テーマを数回に分けて学ぶという連続性のある計画にしたいと考えています。そのためには「欠席」しても学ぶことができるオンデマンド方式も充実する必要があります。来年度はウェブの使い方の周知も加え、この部分を充実させたいと思います。

今回は、学びのパートナー、いわゆる大学生にとっても、動画制作等でこの活動より主体的に関わることができました。学生中心に教材を作成し、事前動画にしました。学びのパートナーは、共に学ぶパートナーに加え、講義を支えるパートナーの2つがあることがわかってきました。講義を支えるパートナーについては、地域や大学の教官等が講師の場合は、学生が事前インタビューを行い、事前の動画、ワークシートの作成等を担っていけると考えます。来年度はそのような方法も試していく予定です。

また今回の動画の活用で幾つかの「学び」の方法も検討し、実施していきたいと考えています。個人の自宅からの学びだけでなく、例えば、2つの大学をつないで、ウェブ上で講義を行い、それぞれの大学の学生が学びを支える。あるいは、特例子会社等の研修に、大学生が遠隔で学びに参加するなどです。学びを深めるのに、リアルに内容と関連のある現場に大学生がいて中継するなどのアイデアも出ています。そのためにも、ICTを活用した学びを体験し、学びが深まったことを実感することが大切だと考えます。

来年度の「大学で学ぼう」に幾つかのアイデアを盛り込み、検証していく予定です。

この研究をとおして、今後の知的障害者の生涯学習について、具体的に考えていくことができました。

文末になりますが、令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」の機会を頂いたことに感謝申し上げます。

—本事業の分担等—

1. 本事業の責任者 山元薫 静岡大学教育学部特別支援教育 准教授
2. 本事業の共同研究者 瀬戸脇正勝 社会福祉法人 青い鳥理事長
3. 本事業運営委員の構成
  - 伊賀 匡 静岡県立中央特別支援学校 校長
  - 山倉慎二 重症心身障害児・者施設つばさ静岡 施設長
  - 小出隆司 静岡県手をつなぐ育成会 会長  
障害者働く幸せ創出センター長
  - 大瀧哲広 静岡市特別支援教育センター所長
  - 大島章嗣 日本軽金属株式会社人事部課長  
日経金オーリス株式会社事業部 部長
  - 望月導章 就労継続支援 B 型事業所 Canvas
4. 本事業運営委員会事務局
  - 山元 薫 静岡大学教育学部特別支援教育 准教授
  - 瀬戸脇正勝 社会福祉法人 青い鳥 理事長
  - 村松智恵子 静岡県障害者就労研究会 会長
  - 五條由美子 静岡県障害者就労研究会 事務局

—執筆分担—

- 山元 薫
- I 本研究の要旨
  - II 本事業が目指す生涯学習のコンセプト
  - III 実践報告
    - 1. 「本物」「静岡のこと・もの・ひと」「生活年齢」を意識した教材開発
  - IV 運営協議会の報告
    - 第1回運営協議会 令和4年7月22日実施
    - 第2回運営協議会 令和4年12月6日実施
    - 第3回運営協議会 令和4年2月15日実施
  - VI まとめ
- 瀬戸脇正勝
- 2. ハイフレックス型を目指した生涯学習の実践
    - (1) 大学で学ぼう
      - 第1回大学で学ぼう 令和4年7月17日実施
      - 第2回大学で学ぼう 令和4年10月29日実施
      - 第3回大学で学ぼう 令和4年12月11日実施
- あとがき

安藤綺更 (2) 特例子会社での実践  
実践1 「生きる」をテーマとしたセルフケアの実践  
「ドキドキしたときはどうする？」

平出早紀 (2) 特例子会社での実践  
実践2 「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践  
「英語で買い物をしよう」  
(3) 特別支援学校分校での実践  
実践1 「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践  
「英語で買い物をしよう」

安藤綺更・山元 薫

V 調査報告

1. 特例子会社で働く成人の知的障害者の生涯学習のニーズ
2. 特例子会社で働く成人の知的障害者を支援する職員からみた生涯学習のニーズ

—動画作成担当者及び協力者—

<担当者>

瀬戸脇正勝 社会福祉法人 青い鳥理事長  
安藤綺更 静岡大学教育学部特別支援教育専攻4年  
平出早紀 静岡大学教育学部特別支援教育専攻4年  
雲 璃海 静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年  
實原一步 静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年  
原ほの香 静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年  
保科昇哉 静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年  
渡辺伶佳 静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年

<協力者>

松見育子 静岡県立清水特別支援学校  
村松利一 静岡大学教育学部特別支援教育専攻4年

本実践報告書は、令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の経費で印刷・製本しています。



